

図画工作科学学習指導案

公開授業①②

第1 図工室

4年 3組

田中 伸

1、日時 2月 2日(土) (9:45~11:30)

2、題材名 「私の背中に…」

3、研究テーマとの関連

(1) 研究テーマ

クリエイティブイマジネーションが高まる学び合い活動の構成Ⅱ

(2) 教科の視点からめざす育てたい力

絵に表したいものやことを思い付き、組み合わせや表し方を探求するクリエイティブイマジネーション

4、積み重ねてきたクリエイティブイマジネーション

本学級の子どもたちは、新たな材料と出合ったときに「これを使ってどんなことができるか。」という活動を継続して行ってきた。造形遊びはもちろんのこと、絵や立体に表す活動でも同様であり、さらにいえば国語や理科など他の教科でも同様である。4年生の発達の段階は表し方の可能性を広げる段階ととらえ、次のような題材を提案してきた。「コンテのひみつ」という題材では、コンテパステルの特徴から思いついたことを絵に表す活動を行った。そこではしっかりぬりこんだ美しさを感じたり、削って粉にし、指などで広げる良さに着目し風景などを表したり、粉と粉を混ぜてグラデーションを表したり、消しゴムで消し、風を表現したりする姿が見られた。「色えん筆のひみつ」では最も身近な描画材の一つである色鉛筆を、これまでの単色でぬりこむという方法だけではなく、色を重ねて感じを変えてみる活動を行った。同じ方向に向けてぬっていくときれいと感じた経験の上に、色を少しずつ重ねていくと雰囲気が変わったり、風景画や人物画に使えそうと思いついて活動したりする姿が見られた。平野五校園共同研究題材「もうひとり自分がいたら…」では等身大の自分を板段ボールに写し取って着色し表現する活動を行った。着てみたい服の色や肌を感じを自分の色で表現していく姿や、できた作品と自分を組み合わせる写真に撮る姿が見られた。新たな材料や方法と出合ったときに、そこからできそうなことを発想し工夫して表し続けていこうとする姿は、本校が考えるクリエイティブイマジネーションが高まっている姿である。このような経験を積み重ねて本題材を行う。

5、本題材で期待するクリエイティブイマジネーション

本題材は、自分の背中の写真に組み合わせると面白い、背中にいてほしいなどと思いついたものを絵に表す活動である。

背中は私たちの体の一部分でありながら、直接自分の目で見るとするには、鏡などを使うことをしないと難しい部分である。また、意思疎通する器官は背中ではなく、ほぼ前向きに配置しているので背中でのコミュニケーションは難しい。しかし古くから「子どもは親の背中を見て育つ」「背中で語る」など、背中は自分の人格がにじみ出る部分の象徴として使われてきた。20世紀を代表するシュルレアリスムの画家ルネ・マグリットの「レディ・メイドの花束」では森の中にいる黒いコートを身に着けた男性の背中にボッティチェリの描いた女神ヴィーナスを描いている。このことなどから予期せぬ場所に予期せぬものを組み合わせることによって面白さやメッセージなどを生み出すことができることを考えるきっかけにしたい。

表し方としては撮影する場所も考え自分の背中の写真を撮る。自分の背中だけを切り取って、全く違う場所と組み合わせることもできるだろうし、背景を初めから描いたり、その先を描き足したりすることもできるだろう。そこで撮影した背中と組み合わせたら面白いものと考えて絵に表すのだが、直接写真の上に描くのはイメージを持つのが難しい。そこで、違う画用紙などに描いたものを切って貼って組み合わせることを提案したい。背中がスタートではなく全く違うものを描き、組み合わせることを活動の中心としたい。どうしても直接描きたい場合はラミネートしてその上に直接描くことを提案したい。ラミネートなどなら、失敗しても消せたり、違う画用紙だと描き直すことができたりするので、失敗への恐怖心を払拭できる。時期はもう2月であり学年末である。この1年をふりかえって、今年自分ががんばった鉄棒の前で写真を取り、鉄棒ができるようになった喜びを表したり、10年間生きてきて経験したことなどを背中で表現したりするなど、言葉では簡単に表現できないような思いを絵に表すことで表現しようとする姿を期待する。